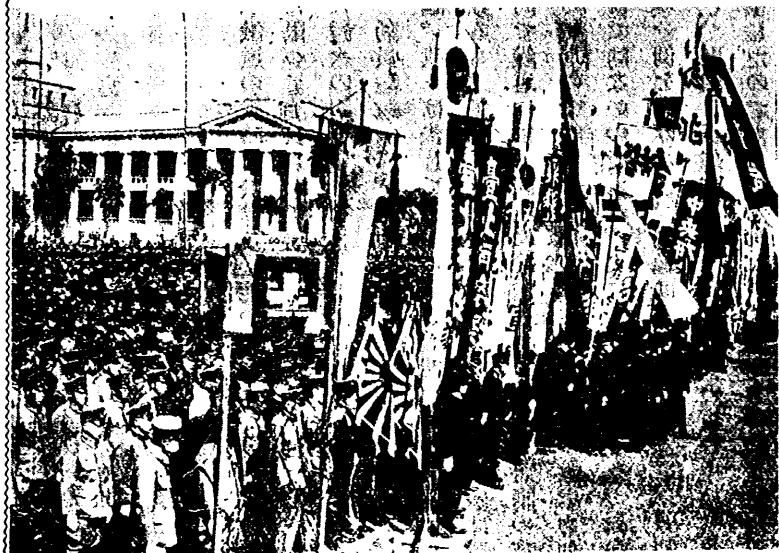


島都の建國祭



紀元の佳節を海南島占領の吉報の日に迎へて建國悠遠の念に浸りながら皇威景仰の心を深くするに共今や東亞の新秩序建設に當り「八紘一宇」の大精神を最高度に發揮されなければならぬ秋である。

併しながら支那事變の前途は幾多の苦難を豫想さるるも斷じて滅私奉公、愈々堅忍持久もつて聖戰目的の達成に邁進すべきである。

茲に、吾等臣民縁深き新公園に集り「日の丸」の御旗を一齊に仰ぎつ、盡忠報國の念を一段と深めた次第である。

時局と臺灣鐵道

交通局鐵道部

從來鐵道の戰時に於ける機能の問題は、殆んど總ての場合、鐵道が直接軍の作戰に協力した事例に限つて論及されて居たものである。例へば、最も普遍的な觀念に従ふと、戰時鐵道の使命は大體次の四つに分類して考究されるを常とする。即ち

一、動員輸送 二、集中輸送 三、作戰輸送 四、軍需品輸送

勿論、我々は決して鐵道の是等機能を過小に評價せんとするものではない。實際、過去の戰史に顧るも、獨逸が普佛戰爭の際大勝を博したのは、實に十六軍團四十五萬の大兵を、僅々十日間で鐵道に依り國境に輸送したモルトケ將軍の方策に出づるものであつた。又日露戰爭に於ける戰局の分岐點は、彼のシベリヤ鐵道の輸送力如何に總てが懸つて居たと云つても、決して過言ではないのである。更に又歐洲戰爭でも、獨逸鐵道の活動は最も巧妙を極めたものであつて、一例を挙げると、獨逸は一九一四年八月二日に動員し、翌三日夕刻より既に軍事輸送を開始し、翌四日正午迄に之を完了、其の夜の中には早くも國境を通過して、五日にリエージュを攻撃したのである。これはライン川を横斷せる複線の鐵橋十八を利用した結束であつて、獨

逸は僅か二十時間の内に動員輸送及び集中輸送を完了したのであつた。されば戰爭勃發の當初に於て、獨逸が西部戰線を破竹の勢を以て席卷し、更に一度鋒を轉じては東部戰線に、忽ち雲霞の如き大軍を集中してロシア軍を殲滅し去つたのは、全く彼の偉大なる鐵道輸送の協力に之を求めねばなるまい。

股鑑遠からず、今次支那事變に於て、鐵道の機能が彼我の戰鬪力の上に於て、如何に重大なる役割を演じたかは、日々のラヂオ、新聞の報道で明かだと信じてるのである。

然し我々は、單に斯の如き事例から以て、直ちに鐵道の戰時機能を悉く之に歸し去つて仕舞ふのは早計に過ぎる。成程、是等の場合、鐵道の戰時能力は最も端的に理解することが出来るであらう。けれども、唯其の故を以て、鐵道が別に戰爭に寄與する他の一面を全然忘却するのは、決して洞察の正確なるものではないのである。

我々は戰時に於ける鐵道の機能を大別して、二つの方面に之を求めねばならない。一は直接軍事行動に参加して、軍に大量迅速なる機動性を附與すること、即ち前述の場合であるが、同時に他の一方では、鐵道が國家の生産力擴充計畫に參與して、戰時國家の總動員體制完成に邁進することをも挙げねばならぬ必要があるのである。此の後者の場合、所論鐵道の間接的戰時機能も亦、我々が戰時鐵道を正當に認識する上に於ては、缺くべからざる一面を爲すものであつて、それが前者に比較すれば、より間接的な機能に止ることよりして、敢て戰爭に貢獻する處勢を證左たらしめんとするのは妥當でない。

殊に近代戦の如く、戦争の遂行が単に戦線に於ける戦闘にのみ倚存せず、戦争目的達成の爲には、前線後を擧げて一體とした國家總動員下の體制に於て支持されねばならなくなつた時代在つては、鐵道の此の機能は一層高く評價することが要求されて然るべきである。尤大なる軍需資材の間斷なき消費に對し、之に遺憾なき補給を續けるには、國內資源の開發や生産力の擴充が必要である。しかも斯の如きは、謂ふ迄も無く、其の悉くが鐵道の偉大なる輸送力に懸つて遂行されることを知らなければならぬ。本島に於ても、本島經濟の戦時化、換言すれば資源開發並に生産力擴充計畫の成功は、歸する處臺灣鐵道の協力を得てのみ、よく其の完成を見ることが出来るのである。

時局下臺灣鐵道の昨十三年に於ける成績は未曾有の輸送力を發揮したのであつた。元來茲數年間、臺灣鐵道の輸送成績は經濟界の好況に恵まれて連年遞増の傾向を辿りつゝあつたが、其の趨勢は事變の勃發に拘らず、少しも衰へる處を知らなかつたのである。事變勃發前の昭和十年度に於て、我が臺灣鐵道の輸送人員は二十五萬九千八百八十三人、輸送噸數は六百二十五萬九千六百八十四噸であつたが、事變當時の十一年度には旅客二千四百四十八萬二千六百七十七人、貨物七百七十二萬一千六百九十噸、又十二年度は旅客二千三百九萬八千五百五十二人、貨物七百二十四萬九千二百三十五噸と漸増して、之を昭和十年度及び十一年度の比較に就て較量すると、實に旅客は二百五十七萬八千九百六十九人、貨物は九十八萬九千五百五十一噸激増を示して居るのである。而して營業收入に就ても、昭和十年度の客車收入九百五十九萬九千六百六十九

圓、貨車收入一千三百九十三萬一千七百三十七圓、雜收入二十五萬七千二百八十二圓、合計二千三百七十八萬八千八百八十四圓は、十二年度に在つては旅客收入一千五百六萬七千八百六十一圓、貨物收入一千五百七十七萬五千四百七十一圓、雜收入二十五萬九千七百二十九圓、合計二千六百六十六萬三千六十一圓と何れも増加して、營業收入合計では二百八十一萬四千八百七十三圓の増收となつて居る。其の比率は約二分の増加に當る。然かも此の遞増の趨勢は十三年度に入つても益々増加率を加重し、十三年度四月以降十月迄の累計を前年同期に比較すると、旅客人員百九十萬人、貨物噸數五十四萬噸の増加となつて現れ、増加歩合は一割五分に達するのである。以て其の激増振りの一端を察知することが出来る。

斯の如く、臺灣鐵道の輸送量が、戦時にあつても常に飛躍的増加を續けつゝあるのは、申す迄もなく、今次事變の結果、島内生産力の活動が活潑を呈し、特に事局産業の振作に依り、物資の往來が輻輳を極めつゝあるに歸因するものであつて、又旅客人員が行樂、行事の縮少に基く減少にも拘らず、却つて増加したのは、専ら物資の移動に隨伴せる往來の頻繁と、並に出征將兵の武運長久を祈る五百萬島民亦誠の現れと見ることが出来るのである。

思へば島内物資の生産擴充が成就して、戦時體制に則應する物資の獲得を満足することが出来ても、之を生産地から目的地に搬出する協力を得なくんば、所詮何等の効果もない。特に本島の如く、海岸線單調にして良港灣に恵まれること薄き地に於ては、島外輪移出入港は僅かに基隆、高雄の兩港に限らねばならぬのであるが、此の輪移出入品を島内生産地より搬出し、或いは島外生産物を島内所要地迄搬入するのは、遍へに鐵道輸送を得るに依つて可能となるので

六
ある。更に本島産業の如き農産物並に其の加工品を主とする場合には、大量迅速なる輸送に鐵道を利用することは必須の條件たるものであらねばならない。又本島産業は日本經濟ブロックの一環として、内地經濟との倚存關係に於て成立せる以上、大部分の島内生産品は島外に移出されねばならぬものである。従て之を輸移出入港たる基隆、高雄に搬出することは、殆んど大多數の貨物が要求する立場に在るに於ては、鐵道輸送力を度外視して、島内産業の擴充計畫を樹立することは、寧ろ不可能と云はざるを得ない。彼此併せ考へる時、本島戰時體制の確立上、鐵道の協力を要する分野は、豫想外に大なるものありとしなければならぬ。

長期戰に對處する本島戰時體制の強化は、今や産業十箇年計畫を中心に、島内經濟の全部面に亘つて著々整備を見つゝある。島民總和の熱誠溢れる協力は、必ずや本島産業に絢爛たる結實を成就して、躍進東亞の建設途上に、力強き新しき一環を加へることを信じて疑はない。が併し、同時に此の秋に當り、我々はかゝる戰時日本に貢獻する島内經濟增強工作が完成する爲には、其の最も基礎的推進力として、臺灣鐵道が先ず十二分に、之を擔ふに足る機能を具備せざるべからざることを痛感して已まないものである。端的に換言すれば、足を得てこそ、物資は價値を生じ得るに至る。

されば我々は如何なる犠牲を忍ぶとも、戰時臺灣確立の爲鐵道施設の改良擴充に邁進せねばならぬ。もとより、本島鐵道の現状を以てしては、今後の本島産業擴充計畫に則應する輸送に遺憾なきを保し得ないではないが、然し全島官民一致の協力を以てせば、近き將來、必ず之が充實を見るに至るべきことは謂ふ迄もないのである。現に最近當局に於ては、銳意鐵道の建設

改良に努力しつゝある次第であつて、目下施工中の工事の一端を列記しても、大體次の如く、各般に亘つて施工しつゝあることを知るのである。

1. 枋寮線建設工事——昭和十二年度以降三箇年繼續事業に依り溪州、東港間、溪州、枋寮間に新線を敷設せんとするもので、十四年十月先づ溪州、佳冬間及び溪州、東港間を竣工開業の見込。
 2. 複線工事——昭和十一年度以降七箇年繼續事業に依り彰化、臺南間、高雄、屏東間を複線化する事となつて居る。十四年度中完成豫定區間は嘉義、民雄間及び高雄、九曲堂間である。
 3. 臺北、高雄兩驛改良工事——昭和十一年度より四箇年繼續事業にて施工。臺北旅客驛は十五年一月から使用開始の見込なるも、高雄驛は時期未定。
 4. 車輛増備並に改修工事
 5. 縦貫線線路強化工事
 6. 縦貫線通信設備改良工事
 7. 橋梁改良工事
 8. 新竹並に新營驛改良工事
- さばれ、長期戰に對處する國家總動員體制確立の爲、臺灣鐵道施設の擴充強化が、特に緊切を要すべき所以は既に明白となつた。臺灣發展の爲、果又躍進日本、興亞の大使命の爲にも、臺灣鐵道に對し、今後の理解と協力を要望して已まないものである。

海南島事情

臨時情報部

一、地理

海南島は南支那海の北西隅に在つて、東は遙に臺灣比律賓を望み、西は東京灣を隔て、佛領印度支那に對し、南は南洋群島を控へ、北は約十二哩の海南海峡を隔て、雷州半島に對してゐる。臺灣との距離は約六百哩、臺灣は九州と海南島との略中間に位置してゐることになる。海南島の主都海口香港間は約二百七十哩、海口海防間は約二百二十哩である。

本島の面積に付ては未だ確實なる調査がない爲明確を期し難いが、大約總面積二千七百万里(四萬一千方里)と稱せられるよりすれば、臺灣の約一・一五倍に當り、黎地と稱する未開地が全面積の約半を占め、耕地面積は全面積の約二割、林野面積は約五割、河川地域が約一割、荒蕪地約二割である。

又本島の地勢は北東より南西に延び、島の中央部を黎母山脈が東西に走つて島を二分し、北は平原地帯、南は山岳地帯を爲してゐる。山岳地帯と云ふも高峻なるものなく、中心を爲す五指山の如きも精々五千八百尺程度、其の他は概ね千尺以下であり、三、四千尺に達するものは

甚だ稀である。従つて之等の山岳地帯に在つても、河川の流域には相當豐腴な平原を隨所に展開し、東南部沿海地方にも亦相當の平原がある。河川は黎母山系及五指山系より發して四方に流下するもので、海口港に注ぐ南渡江が最大であり、陵水河、龍滾河之に亞ぎ、北門江、文昌江、昌化大江等の外十數河を算する。尙本島の地質は調査不完全の爲不詳なれ共、概して火成岩系統に屬する爲溫泉地も十餘箇所及び、外に水成岩も存する。土壤は沖積層は甚だ少く、沿海の一部に之を見るのみである。

本島は北緯十八度九分より二十度二分の間に在つて、我が臺灣より尙一度餘南に位するのであるから、氣候は四時溫暖、常に花を見、冬季に於ても霜雪を見ない。昭和十一年迄三年間の海口市の平均気温は二十四度四であり、同年間の我が高雄州恒春のそれに等しい。又本島は中央部が山岳地帯である爲、臺灣と同様に中南部と海岸地帯とは氣候を異にしてゐる。即ち海岸地方は山少く、海洋氣象の影響を受け、風多く、気温も稍高いが、山岳地帯は気温稍低く、雨が多い。一般に晝は暑氣烈しく夜は低温となり、全く熱帶的氣候の特長を示してゐる。雨量は瓊海關の觀測(昭和十一年迄三年平均)に依れば降雨日數年平均百三十日、雨量千六百九十二、三耗にして、六月及九月が最も多く、一月及四月が最も少く、六、七月の候には颶風を生ずることがあると云はれる。

由來海南島は瘴烟蠻雨の地と傳へられてゐるが、事實は前記の如き有様で、黎地に於ては衛生施設の不完と、民度の低き關係上尙熱帶的流行病が蔓延することがあるが、其の他の地方は

さして不健康地ではないのみならず古來地震のない土地とされてゐる。

一〇

二、住民及風俗

海南島は中國本土より離隔して自ら化外の一域を爲し、而も古來瘴烟の地を以て目された爲、漢、晉の時代に於ては其の主權外に抛棄せられたこと一再でなかつた。唐代に至つて始めて軍を駐めて版籍を確定したが、尙罪囚流配の地としたに過ぎなかつた。即ち本島現住漢民族の多くは之等軍人、罪囚及雷州半島方面より渡來した流民の子孫であつて、漸次先住民族である黎族(註)を山間に壓迫して今日に及んだものであり、漢民族の現在数は二百十萬人餘と云はれてゐるが、黎族の數に至つては二十萬と云ひ或は五十萬と云はれ、其の數は全く詳かでない。

註 黎族は一般に黎族と苗族の二つに分類され、前者は更に黎、俸、伎の三族に細別される。苗族は昔漢族以前に於て支那全土に其の足跡を印した種族であつたが、漢族の物興に依つて遂に驅逐せられたやうであり、本島に於ても尙黎族と共に黎地と稱せられる山岳地帯に漢族に依つて追ひ込められたものである。従つて此の黎苗族共に漢族に對する反感は極めて強く、彼等は全く別な習性を持つて別な社會を作つてゐるのであるが、其の文化及民度等は極めて低位なものである。

本島の漢族間に用ゐられてゐる言語は大別して瓊州語、儋州語、臨高語、客語、艇家語及海濱語と稱せられるものであるが、何れも福建、廣東語系のものであり、宗教は支那本土と大差なく、佛教、道教、回教及基督教(新舊)の四教がある。基督教は數十年前より相當に活動し、既に天主教徒二千、新教(長老教)徒四千に及ぶと云はれてゐる。

民情は極めて素朴勤勉であるが、環境の影響に従つて地により之を等しくしない。東部地方は大陸との接觸に依つて文化稍啓け、華僑として南洋方面(盤谷、新嘉坡、香港を最多とし、海防、爪哇及馬來半島之に亞ぐ)に出稼せるものも少くないが、其の多くは旅館、酒樓、茶房、製靴、裁縫等の諸業に従事しつゝある者であり、所謂大成功者は極めて少い。

住民は城市に於ては多く商業を營み、山村は農耕に従事するが、農法は極めて幼稚なる爲收穫は頗る低度である。沿岸地方に於ては漁撈を、中部に於ては牧畜を業とする者多く、米、薯芋、山薯、黎粟等を常食とし、酒類及檳榔等の刺戟物を愛好する。

婚姻は概ね女子十五、六歳を適齡とする。同姓婚を嫌忌するのが一般であるが、臨高縣では同姓相婚し、人の家女、有夫の婦を強奪して妻とする等掠奪結婚時代の習俗が残つてゐる。又廣く蓄妾の風があり、女子亦貞操觀念なく、結婚離婚共に自由で、近時共產主義思想の浸潤に伴つて、此の風潮は益熾となつた。疾病に關しては多く符呪を以てし、重篤となつて始めて醫治を加へる程度で、衛生思想は極めて低劣であり、喪葬に關しては殯殮の弊風があり、盛大な送葬埋葬の諸儀を行ひ、貧者と雖も數百千金を蕩盡する。

三、都 邑

本島の重要なる都邑は海口、瓊山(瓊州)及嘉積の三であつて、其の他は未だ都市と稱するに足りないものである。地方商業の中心地又は港市と云ふも大體人口千乃至二、三千程度のもの

で、之等の都邑は全島を通じて三十有餘ある。

海口市は本島第一の都會で瓊山縣の北、南渡江口に在る。雷州半島と本島との連絡路に當り、南支及南洋各港間定期航路の寄港地であり、本島輸移出入貨物の大半を集散する。本市はもと瓊山縣に屬してゐたが、民國十五年獨立市となり海口市政廳を設けた。市の面積は約一方里、全戸數約四千三百、人口約五萬二千、在留外國人約四十名である。

瓊山は海口市を距る一里の地に在る。一八五八年天津條約に依つて開かれた開港場で、清朝の頃大いに開け、商業殷盛を示したが、漸次其の繁榮を海口市に奪はれた。本市は瓊崖督察專員公署、瓊山縣政府の所在地として本島政治の中心地を爲し、現在戸數千六百餘、人口約八千と稱せられてゐる。

嘉積は嘉積溪に望み人口約六千、東部地方物資の集散地にして、海口に亞ぐ本島第二の商市である。嘉積溪に依り五指山及流域地方の物資を吸収し、同河を下航して博鰲港に通じ、同港より支那本土諸港に航路開け、更に龍滾河に依つて龍滾に連絡する。附近は華僑の出身地として知られ、南洋地方好況の際には送金高年百萬元を超えたと傳へられてゐる。

尚本島の主要都邑を列擧すれば次の如くである。
瓊山縣—海口、瓊山、列樓、屯昌、舊州
文昌縣—便民、文昌、陳蒙、清瀾、白延、邁號、文教、舖前、波羅
定安縣—定安、石壁、定陽、巡崖、嶺門、龍門

瓊東縣—嘉積、瓊東、會同

樂會縣—樂會、博鰲

澄邁縣—金江、澄邁、瑞溪、安仁

臨高縣—臨高、新興、新盈、和舍、龍坡、南豐

儋縣—新英、儋、那大、海頭、白馬井

萬寧縣—萬寧、和樂

陵水縣—北關、陵水、新村

崖縣—三亞、崖、榆林、藤橋

昌江縣—昌江

感恩縣—感恩

白沙縣—白沙

樂安縣—樂安

保亭縣—保亭

四、交通

本島は四面環海であるが比較的海岸線の彎曲に乏しく、天然の良港なく、現在の港灣は概ね河口に開け、土砂の堆積に依つて水深淺く、汽船の進入を許さず、且埠頭の設備は困難である。

就中本島南端の榆林港は天然の良港であり、清瀾港之に亞ぎ、外に海口港、舖前港、三亞港、新英港及藤橋港等がある。

航路には海口に寄港するものに太古汽船及法國郵船の二定期航路があり、我が大阪商船會社は大正四年香港、北海、海防航路を開設し、之に二船を配して四箇月間海口に寄港したことがあるが、其の後停止せられ、大正十年には山下汽船會社が一時寄港したが、之も間もなく中止となり、更に之と前後して大阪商船が再び海口に寄港したが、滿洲事變の影響に依り中止して今日に及んでゐる。

又本島に對する航空路は西南航空公司に依つて民國二十三年開設せられ、最近に於ては廣東、梅菜、海口線として一週二回旅客機が運航せられた。

陸上交通機關としては自動車、獨輪車、人力車、轎等が用ゐられ、未だ鐵道は敷設されてゐない。道路には軍事的見地より建設された公路があり、其の延長三千餘支里、縣道六千餘支里に及ぶが、車の通り得るものは約二千八百支里と稱せられてゐる。

郵便局は海口市に一等郵局、文昌、嘉積、の各地に二等郵局、定安、那大、崖に三等郵局が置かれ、郵便物は自動車、帆船及擔送等に依つて集配され、郵便貯金は年額約一萬元、外國郵便爲替は約十萬元に達すると云はれる。

電話は海口市に總局を、各縣に分局が置かれて居り、有線、無線に依る電報局は海口市にある。

五、政治及行政

行政組織は瓊州府に在る瓊崖督察專員公署を最高機關とし、其の下に海口市、瓊山、文昌、澄邁、定安、瓊東、樂會、萬寧、陵水、崖縣、臨高、儋縣、昌江、感恩の外黎域に屬する白沙、樂東、保定等の一市十六縣を置いてゐる。

司法組織は廣東控訴院を上級機關とし、瓊山に瓊崖地方法院を、各縣公署には分庭を置き、彈劾三審制を採つて居り、警察機關としては都邑に警署を置き、地方には臺灣に於けると略同様の保甲の外保安隊を置いてゐる。

又黨務に關しては海口市に中國々民黨瓊特別委員會を設置し、其の指導下に縣市黨部を置いてゐるが、黨勢は至つて振はないやうである。

六、教育及社會事業

小學校は縣立、區立及私立合計約千五百校、兒童數約六萬、中學校は省立、縣立及私立合計十二校、生徒數は各校二、三百名を收容してゐるが、何れも三年制である。又省立師範學校一、縣立實業學校一の外講習所或は學塾等がある。學塾は約二百を數へ、塾生約四千と云はれ、圖書館は七館、圖書新聞閱覽所は三、四十に上り、日刊新聞には瓊崖民國日報及瓊崖新民日報の二紙がある。

洋式病院としては佛國政府の經營するもの、教會の經營するもの、海口市總商會及華僑共同經營のもの等の外、海口市及瓊山縣には公立醫院があるが、一般に良醫に乏しく、醫療を求むることは甚だ困難である。又癩患隔離施設として海口市に痲瘋寮があり、患者五、六十名を收容してゐる。

尙飢饉時に備ふる貯米倉庫たる義倉の建設は最近大いに奨勵せられ、臨高、瓊山を首め、各所に漸次其の實現を見つゝある有様である。

七、財 政

海南島の財政は中央財政省財政及縣市財政に區分せられる。由來本島の財政は省政府の方針に依つて變遷常なく、未だ嘗て整備せられず、歳入の殆んど全部は租稅收入であるが、稅制は名のみで、徒らに紛交錯雜を極め、一面細捐を重課しつゝ、他面巨大なる脱稅隨所に起る實狀である。従つて政府の歳入それ自身一定ではあり得ないが、民國二十三年に於ては約八十四萬元の海關收入を加へて國稅收入は約百五十萬元程度であり、省政府の收入は大體五十萬元であるから、兩者を併せて總收入二百萬元内外と見られる。明治二十九年に於ける我が臺灣の財政は經常部歳入合計二百六十萬圓で、租稅收入は六十六萬圓の海關收入を加へて二百萬圓であるから、租稅收入の點から見れば大體當時の臺灣に髣髴たるものと云へよう。

歳出の關係は詳かでないが、中央の支出に屬するものには行政、司法、財政及軍事の諸費が

あり毎年百五十萬元程度、省政府の支出に屬するものには各縣の警學補助費、交通行政費及財政費があり大體四、五十萬元、縣市の負擔に屬するものには各官署經費及警衛教育費があり之亦四、五十萬元程度と推測される。

内國稅の種類は國稅、省稅及縣市稅の三種であり、其の徵收方法は中央政府の特設機關に依るもの、地方官廳の代營するもの、省政府又は地方官廳が一定の規程に依つて商人の請負に附するもの等があり、其の詳細は左の通である。

國稅—關稅、鹽稅、統稅(綿絲稅、煙草稅、卷煙草稅、麥粉稅、燐寸稅、酒精稅)、印花稅、酒稅、爆發物專賣捐、國防捐

省稅—錢糧(地租)、防務經費、有獎義捐、煤油販賣營業稅、洋紙專稅、豚捐、顏料專稅、洋布太物專稅、屠牛牛皮稅、生牛稅、烟牌照稅、各種花捐附加稅、酒牌照稅、檳榔捐、糖類捐

縣稅—警備兵軍費稅、貨物稅、交通稅、娛樂稅、家畜稅、租稅、魚類稅、屠牛稅、他縣產貨物通過稅、卜祝稅、店舖稅、雜稅、省稅附加稅

八、貿 易

本島には便民、嘉積、那大、藤橋等の相當繁華な市場があるが、之等は地方農産物又は海産物の集散地たるに止り、又新英、清瀾、舖前、博覧等の港市は島内港市間の交易を主として居

り、輸移出入貿易は殆んど海口市に於て行れる状況であり、支那本土に於ける本島との主要貿易相手地は廣州、上海及汕頭である。海口市の最近に於ける外國貿易額は五百萬元、内國貿易額は九百萬元と稱せられてゐるが、本島は四面環海にて且雷州半島は指呼の間に依り、民船に於る往來便利にして密貿易盛なるを以て、實際の貿易額は右の海關統計の數字を遙かに超えることは明かである。

今輸移出入主要貿易品名を挙げれば左の通である。

輸出品—牛、豚、錫

輸入品—鐵製品、小麥粉、石油、重油、洋灰、米

移出品—鹽、土糖、生薑、檳榔實、椰子油、瓜子、牛糞皮、鹽魚、乾魚、乾果、籐、包蓆、

燕窩

移入品—卷煙草、小麥粉、藥品、麵類、綿絲布、土布、石油、洋灰、豆、紙、磁器、罐詰、

石炭、燐寸

九、金 融

由來海南島は相當の入超地域であつて、南洋華僑の送金に依つて之を補填しつゝある状況である。故に南洋方面が不況となれば、本島の經濟界は忽ち影響を受けざるを得ない。殊に海南島出身の華僑は主として勞働者であつて恒産ある者は少いのであるから、一般の景氣變動に依

る打撃は深刻である。本島の實情は多少能力ある者は華僑となり、然らざる者及家族が殘留して僅に農耕に従事すると云ふ有様で、而も彼等の性情は天に任せて食ふ式であるし、又華僑と品も巨財を積む如き成功者は稀であり、假に錦衣歸郷する者も唯徒らに美衣飽食を理想とするので、天恵的に可成の資源を擁しながら企業熱の如きは起り得べくもない。従つて金融機關の如きも甚だ幼稚で、經濟界と云ふも未だ全く低度のものである。

通貨としては銅幣の外香港紙幣、上海紙幣及廣東毫銀紙幣等があり、就中香港紙幣が最も信用を有するが、一般に廣く流通してゐるのは補助貨たる銅幣である。

銀行は僅に海口市に中國銀行及廣東省銀行の二支店ある外、銀號に類した瓊崖實業銀行があるのみであり、錢莊は專業者二十有餘、兼業者五六十を數へ、海口市を中心に文昌、嘉積、邦大地方に散在し、主として華僑の送金爲替を取扱つてゐる。

十、産 業

イ 農業及畜産

本島は中部山岳地帯を除いては全島に平原曠野極めて廣く、河流四方に注ぎ、土地豊沃、雨量潤澤にして耕牧悉く適し、實に南方の一大天然農場である。従つて住民の大部分は農業に従事し、總人口の七割七分即ち百七十萬人は農業者であつて、臺灣の五割三分に比較すれば遙かに高位にある。全島の可耕面積は約八十五萬甲歩と推定せられるが、耕地の利用は至つて幼稚

であり、農作物の栽培に用ゐられてゐるものは約九萬甲歩に過ぎないと云はれ、瓊城の東南那梅村には農事試験場の施設があるが、其の規模及成績共舉ぐべき程のものではない。

農作物中其の大宗を爲す水稻には糯及粳の二種であり、二期作を普通とし、三期作をする處もある。主産地は本島の東南部及西北部であるが、一般に水利に乏しく、施肥を加へず、農法極めて粗笨である爲収量も少く、本島の需要を充すに尙足りない爲に年々暹羅、安南、安舖（廣東省）等より之を輸入する有様である。又陸稻は酸性土壤に強き爲北部の丘陵地方に廣く栽培せられるが、概ね一期作で、農法は之亦幼稚である。

甘蔗は一年で收穫し、十一月より五月迄を製糖期とし、西部、北部及南部地方に多く産するが、品質粗悪なる爲爪哇糖進出に壓せられ漸次衰微の傾向にある。

鳳梨には在來種と外來種の二種があり、前者は品質不良であるが、後者は有望である。島内到處に植栽せられるが文昌縣は盛である。

蕭草の栽培も亦盛で、瓊東、定安の兩縣は特に多く、年産蕭數萬張に及ぶ有様である。以上の外珈琲、茶、キャッサバ、西瓜、落花生、豆類、芝麻、玉蜀黍、蕙米、藥草、蔬菜、果實類等の栽培に適し、果實類中檳榔、龍眼、荔枝、芭蕉等の栽培が盛であり、棉花、麻、煙草等の栽培も有望視されてゐる。又南部地方に於ては椰子及護謨の栽培も亦相當に盛である。

養蠶業中天蠶、野蠶の飼育は定安、萬寧の兩縣に盛で年産一萬斤に達し、家蠶は東部地方の農家の副業で年八回作であるが、品質は粗悪である。山蠶は嘉積溪沿岸に産するのみで未だ一

般には普及してゐない。

畜産業は何れも農家の副業で、飼畜は農耕又は地方の食用に供せられる外主として香港に輸出せられる。牛及豚を以て主體とし、馬は體軀倭小にして交通用に供せられるも其の數少く、外に羊、鶏、家鴨、鵝、鳩、蜜蜂等が飼養せられてゐる。

林業

本島は風勢猛烈なる爲産材は材質堅硬、年輪緻密にして抵抗力に富み、腐蝕に耐へ、材質は殊に優良である。沈香、伽楠等の香木は本島の特産で、中部山嶺地帯には良材大木鬱蒼として千古不斧の森林が、殘されてゐるが沿江近海の地は濫伐して補植を行はざる爲用材にも窮する有様で、林業整理を要する實狀である。

今本島に於ける林業地帯を舉げれば左の如くである。

將來有望なる林業地帯—昌江流域、寧遠河流域、陵水流域、大陽河流域、嘉積河流域、殆んど斫伐されたる地方—龍滾河流域、南渡江流域、北門江流域

鹽業

鹽場は廣く十縣に亘つてゐるが、崖縣、陵水、昌江、感恩を以て鹽田區域、瓊山、文昌、臨高、儋縣、萬寧、瓊東を以て漏灶區域とし、年産八十萬擔を超へ、就中三亞を中心とせる崖縣の産出は其の大半を占め、鹽業は本島の一大重要産業であると共に鹽稅收入は本島稅收の大宗を爲す有様である。

二 水産業

本島には海口、清瀾、陵水、新村、榆林、三亞、望樓、北黎、新盈等の港があり、沿海の住民は多く漁業に従事し、近海に於ては小型船に依り曳網漁業を爲し、遠洋には三、四十噸乃至百噸の漁船を用ゐる有様であるが、漁撈技術は極めて幼稚なるのみならず、漁獲物の輸送不便なる爲未だ産額は僅少である。而して本島の近海一帯は概して底魚豊富なる爲曳網漁業に適し、殊に東京灣は斯業の好漁場として既に著名である。

又近海魚族には鯛、鮪、鯉、飛魚、蝦、珊瑚等多く、島内の池沼河川には淡水魚類が豊富であると謂はれてゐるが、未だ充分に調査されて居らな。

尙本島は燕窩の産地として有名である。

水産業

本島の礦物資源に付ては未だ精密な調査なく、其の真相は判然しないが、其の豊富なるは一般に豫想せられてゐる處である。既に発見せられ又は探掘を試みられたものに金、鐵、錫、銅、銀、鉛、石炭、水銀、硫黃、ウオルフラム、アンチモニー、亜鉛鐵、油頁岩、石灰石、珪砂等があり、今後調査を進めれば、更に新なる資源の発見も尠くないであらう。現に稼行中のものは儋縣に於ける錫鐵及砂金の採取のみであるが、何れも規模狭小、採取法亦幼稚である爲産出量は僅少である。即ち本島の礦物資源は全く自然の儘に保有せられ、開發を俟つてゐると云ふ姿である。

一 工業

本島に於ては海口、瓊州の二市に電燈の設備があるが、尙動力を用ゐるものなく、工業は全く家内工業の域を脱してゐない有様であるが、製糖業(舊式糖廠)、製油業(落花生油、海棠油、椰子油)、製革業、罐詰業、磚瓦燒業、土布製織業、包蓆業等に幾分見るべきものがあり、電力資源の開發と相俟つて本島の工業化は全く將來の問題として殘されてゐる。

十一、海南島に関する各國の關係

海南島は英の香港及新嘉坡、佛の佛領印度支那、米の比律賓而して臺灣に其の四邊を圍繞せられ、天然の資源と軍事上の價值とは之等列強の注目を引くに充分である。然し今日迄には例の清佛不割讓條約(一八九七年)を除いては海南島に関する何等の外國既得權益の存するものはない。

今海南島に於ける各國の勢力を挙げれば次の如くである。

イ 米 國

米國は本島に領事館を設置せざるも、約百年以前より教會政策に依る勢力の扶殖に努力し、海口市に長老教會一、病院一、學校二(小學校及醫師看護婦を養成するもの各一)、スタンダード・コンニール石油會社を有する外、瓊山縣城、那大、嘉積等の要所に文化施設を經營し、島民に對しては常に溫情的政策を以て其の懷從に腐心し、今日に至つては米國の勢力は既に列國中第

一位を占め、島民の信頼亦甚大である。一九一六年には中國との間に海口より樂會に至る鐵道の敷設は米國資本に依るべき旨の取極を爲したこともある。

尙各地に於ける長老教會の事業概況は次の如くである。
海口市—海口教會は鹽灶村に在りて、福音堂一、傳教師一人あり。福音醫院一、聖經學校二を附設してゐる。醫院は規模大きく患者二百人を收容するに足り、聖經學校は男女兩部に分れてゐる。

瓊山縣城—福音堂一あり、内に華美中學、匹瑾女子中學を附設してゐる。

那—那大教會には福音堂一、傳教師一人あり、内に醫院、高等小學を附設してゐる。醫院は宏壯で設備完全である。小學は男女二部に分れ、兒童は百餘人である。教會より分派する教堂は儋縣に於ては和慶市に一、臨高縣に於ては南豐、和舍、加來、南寶、南江村、東英等六、澄邁縣に於ては西峰、岑崙等二、合計九箇所に達する。各初級小學を兼營し、各校兒童は二、三十人である。

嘉—積—嘉積教會には福音堂一、附屬醫院一、小學二を置き、傳教師、醫院長各一人あり。各所に分設した教堂には小學を附設し、更に黎洞にも人を派して傳教並に教育に當らしめてゐる。

尙支那事變前に於ける海口在住米國人は税關長、税關員、福音醫院長、宣教師及其の家族等十一名である。

□ 佛 國

佛國は佛領印度支那防衛上最も本島に深い關心を持つ國であり、一八九七年疊に清國をして不割讓宣言を爲さしめ、翌一八九八年には本島の南海岸榆林港に軍港設置の計畫を以て、其の租借を申出でたが實現に至らなかつた。海口には領事館をはじめ教會一、修道院一、學校二、病院一を經營してゐる。佛國は廣州灣の租借以來本島には多く關心を持たないか見えだが、日支事變以來我が海軍の活動に注目してゐる。本事變前に於ける海口在住の佛國人は領事、宣教師、中法醫院長及其の家族等十五名であつた。

ハ 英 國

英國は嘗て領事館を置いたこともあるが、五卅事件以來之を閉鎖した。現在海口にアジア石油會社の外太古汽船會社の代理店を有し、日支事變前の海口在住英國人は港務局長、同副局長、太古洋行事務員等四名であつた。

從來英國は本島に深い政治的野心を持つてゐない様であつたが、先年の國民政府經濟建設計畫樹立に際し、建設資金二億元中半額一億元の借款(三分利、十年据置、二十五年償還)に付交渉中なりと傳へられてゐる本計畫は第一部として南支鐵道の建設、第二部として海南島の開發を爲さんとするもので、其の事業内容は

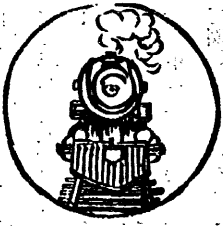
- 一 循還鐵道の建設(海口—文昌—榆林—崖縣—昌江—臨高—瓊山、全長四五〇哩)
- 二 自動車道路の大擴張

三 港灣の改修
四 農林資源の開発
二 獨逸

獨逸は歐洲戰爭前海口に領事館を置き、島内の探險にも意を注ぎ、専ら開發の志があつたが、戰後東洋に於ける勢力を失墜した同時に本島に於ける勢力も亦衰へ、現在は領事館もなく、在任者も皆無である。

水 日 本

日清戰爭後調査團を本島に派遣したが成案得ず、其の後一、二の計畫はあつた様であるが更に實現せられなかつた。邦人進出者としては海口市に於ける藥種商勝間田洋行の外は、本島人醫師數名に過ぎない。



地方情報

臺中州報國總動員

〔臺中州臨時情報部〕 臺中州では國民精神總動員の趣旨を顯著し銃後の強化並に皇民的訓練の徹底を期する爲め臺中州報國總動員實施に積極的に乗出すことになつた。その綱領實施事項等次の通りである。

- ◆綱領
1. 實行運動に依り尊皇愛國の精神を涵養す
 2. 時局認識を明確ならしめ銃後の守りの完璧を期す
 3. 生活訓練に依り國民的自覺を更張す
- ◆實施事項
1. 勤勞奉仕訓練(十日以上)

神社外苑の清掃、道路、堤防、排水溝の修築、河川整理、植樹、植林、並木造成、部落美化、其他適當に認むる事項、其他

2. 定期召集訓練(隔月一回以上) 本運動實施によつて從來各地各團體に於て區々に行はれた勤勞奉仕作業も統一され有效適切な奉仕運動が實施されその成果は期待されてゐる。

臺中警察署の銃後工作

〔臺中州臨時情報部〕 事變下に於ける國民運動の一つとして各家庭に於ける廢品回収は各方面に於て實施中であるが臺中警察署では一層之を徹底的繼續的に實行すること、なつた。

- 一、期 日 毎月二十日
- 二、作業の分擔
 - イ、保正……部内甲長及家長を指揮し主として本島人家庭より蒐集する。
 - ロ、壯丁團長……團員を指揮し部内内地人家庭、會社、

工場、官衙、學校、各方面及路傍河底、塵捨場等より蒐集する。

ハ、受持警察官……受持部内保正、壯丁團の蒐集作業の指揮監督をなす。

三、蒐集品の處分

警察署に於て競賣に付し代金を保甲壯丁團名義の國防献金又は皇軍慰問費に充當す。

四、蒐集の成績特に優秀なる保又は壯丁團に對しては著長賞を授與する。

出征軍夫の美しい献金

〔臺中州臨時情報部〕 昨年末下關貯金局長より大屯郡守宛に額面十圓の爲替が届けられたが送付者其他が不明故に早速臺中郵便局に問合せ方を依頼したところこれは先般出征軍夫の美しい匿名献金と判明した。送金の主は昨年軍夫として勇躍出征し目下通譯として〇〇方面で活動中の大屯郡烏日庄梁萬生君で同君は公學校訓導を経て國語講習所講師としてよく時局を認識し生徒を通じて部

落民の指導啓蒙に盡力して居たものであり同郡では同君の意に依つて直ちに國防献金の手続をとつた。

臨時情報部巡回映寫

〔臺中州臨時情報部〕 曩に總督府臨時情報部に製作せる皇軍廈門占領奮戰苦闘の状況及其後に於ける迅速な全島朗復現狀、明け行く廈門を借り受けこれに併せて時局並に教化映畫等を同時に上映左記の通り州下各市郡を巡回映寫し時局認識の向上を圖つた。

臺中國婦會の軍隊慰安會

〔臺中州臨時情報部〕 國防婦人會臺中市分會主催軍隊慰安會は一月十四日午後五時より〇〇隊演武場に於て盛大に開催された。主催側は分會長理事評議員班長等四十名參集、料理萬端を整へ定刻花箱兵事係長の挨拶に對し芋生隊長の謝辭あつて開宴其の間萬歳浪花節舞踊俚謠民謠詩吟等の餘興百出頗る盛大を極め午後八時半萬歳聲裡に散會した。

白衣の勇士の慰安會

〔臺中州臨時情報部〕 臺中市明治幼稚園並兒童遊園地の園児達は一月十七日〇〇分院に白衣の兵隊さんを慰問して遊戯や舞踊で心からの感謝を捧げた。二十一日には市役所團が白衣の勇士達と野球及庭球試合をなし引續き演藝會を催して會食をなし赤誠婦人團から應援をした。二十二日は明治小學校で學藝會を開催して勇士方を招待し、二十四日には臺中法院が慰安會を開催し、また三十一日には附屬公學校の兒童達が體操遊戯を觀覽に供した。

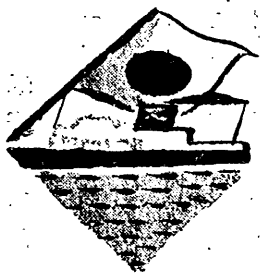
老婆の赤誠

〔花蓮港臨時情報部〕 花蓮郡吉野庄吉野宮本ミヤ(六五)さんは老齢にも拘らず時局柄無爲に遊び暮すは勿體ないを豫てより同村奥本芳三郎氏經營の製繩工場に於て一人若い者の中に混り一生懸命働いて居るが、よく時局を認識し報國の念厚く其の工資の中より昨年十月三十

日に金十圓を献金し、今回更に庄役場を通じて金十圓を國防献金した。其の時お婆さんはお金が蓄つたら又献金しますと元氣よく言つて去つた係員一同この老婆の赤誠に感激した。

銃後の護りは固し

〔花蓮港臨時情報部〕 出征軍人遺家族玉里郡玉里街三笠四八ノ一煙草耕作畑田六郎(五六)さんは昨年十二月初旬恙蟲病に罹り一時は衰弱甚だしく危険の状態であつたが漸次快方に向ひ現在は殆んど全快したが此の畑田氏に對する部落民の美譽が最近判明した。即ち病床に呻吟中煙草耕作は全然出来なかつた同氏に同情し出征軍人の家族を救へよの心からなる隣人愛より同村の小野田兼輔氏小野太十氏等は忙しい家業や煙草耕作があるにも拘らず晝夜の別なく畑田氏の煙草耕作を手傳ひ畑田氏が病床にある間に立派に第一期の收穫やら第二期の植付迄も濟んでゐた。又ロブサン社ノブマン族青年は煙草乾燥用の薪を橋に五十索も無償で運んだ。病癒えて庭先に立つて之を見た畑田氏は只々感激の涙を流して喜んだ。



海外情報

佛國の對日輿論

(河内)

佛國の對日輿論は依然日本に對して好意的でなく中、南支に於ける戦局の發展に依る既定事實をも曲解してゐる。例へばラブニール・デュトンカン紙はその十一月十六日付紙上に於て「支那があらゆる犠牲を拂つても廣東の防禦をしなければならぬ事實は支那に於て非常に高價なものだ。確かに漢口の放棄よりも高價な損失であつた。戦局の觀點から云へばこの重要性は漢口放棄と同日の談ではない。その重要性を認め乍一方に於ては、日本は廣東を攻略したのではない日本の戦勝では無い、彼等は單

に支那政府が任意に放棄した一市街に侵入したに過ぎぬ。なごみ故意に既定事實を隠蔽せんとする態度は依然改められてゐない。最近佛本國に於ては斯る排日的空氣に拘らず或種の親日的空氣の萌しが動いてゐる模様である。マルクパンサンの著したパンフレット「日支事變に直面せる印度支那」に於て佛國の極東に於ける權益である印度支那保全のためにまた海南島及びパラセル群島に關する國防上の問題からも極東に於ける實力者たる日本との提携の必要を力説してゐる。

先般鐵礦石輸出禁止問題に因る日本のホンゲイ炭ボイコットの關稅報復手段が執られる怖れありとの風説傳はるや、ホンゲイ炭の唯一の顧客先たる日本に袖にせられは、同炭礦業者は青くなつて鐵礦石の輸出禁止に反對した。これらの事實より觀ても佛國も相當親目的分子もあり印度支那鐵礦開發により日本との經濟的提携を欲する空氣も相當濃厚のやうに見受けられる。併し(1)支那華僑の經濟的勢力大きく、これと印度支那に於ける政治經濟が緊密に結びついてゐること、(2)輿論を指導する

新聞紙の讀者に支那人の多數なること、(3)佛國が對支武器輸出に依り莫大なる利益を擧げてゐること、(4)佛國の西南支那に對する權益擴張の幻想等の事情に依り親目的空氣は未だ微々たるものにして假令佛本國が相等の事情に依り親目的なるにしても印度支那は本國政府に遠隔し支那に隣接するこいふ地理的理由並に前述の理由に依りそれ程敏感に政策の轉向を早急に行ひ得ないものと見られる。

何故の「グアム島」防備?

(米國)

國民新聞が「グアム」及「ウェイク」島海軍根據地建設問題に關して社説を掲げ米國か日本の對支政策に干渉する場合に日本は斷乎として米國海軍を撃滅すべしと恫喝した旨の報道は一月十六日當地各地新聞に掲載せられ注意を惹いて居る。十七日市俄古「トリビューン」は右に關聯し「日米戦ふべしや」の題下に社説を掲げ左の通り論じた。

「比律賓より手を引かんとする米國が今更何の必要あり

て、グアムに海軍根據地を建設せんとするや假に日米位置を換へ、米國本土より千五百哩の近き位置に日本が海軍根據地を建設すせば、米國は右を以て米國に對する重大なる敵對行爲を見るは當然なるか如く今次米國の行爲に對し日本が重大なる關心を有し憤慨するは極めて自然のこと、言ふべきである。日本は目下支那事變で手一杯なりは言へ此際英米が多少實力を示さば、日本は容易に崩壊すべしとの豫想は極めて危険な考である。

今日の日本は英米兩國を同時に相手とするも、軍事上必ずしも不利の地位に在りしは思つて居らぬ。何となれば日本は英米を相手として戦ふ場合には全歐州が直に戦亂の卷み化し去ることを知つてゐるからである。今日米國は何等物質的に犠牲又は國威の失墜なくして平和を維持し戰爭の慘禍より超然たり得る唯一の國にして斯の如き天與の恩恵を引継ぎ享受するや否やは米國の意思如何のみに依り決定せらるゝことを銘記すべきである。

漳州近況

最近鼓浪嶼に來た者は漳州の情況を左の如く語つた。

漳州七縣の住民は蔣政府の抗戰實行以來、省内に不安募り、家族は離散し且つ各處に於て壯丁の強制徵發を受け一般住民の生活は極度の困難に陥り蔣政權に對して反感を懷き居るが公然と反對すること出來ず、最近民間有力者は秘密に同志を募集し政府當局の行動に反對實現を蔣派に反對する國府の中心人物を通じて居たところ當局の探知するところとなり、一應驅逐せられたが最近再び故地に返り昔時の同志を集め各處の反蔣派と連絡の上、時期を見て事を起さんとした。然るに再び省政府當局の知るところとなり省府よりは秘かに特務偵探員を派遣の上、各處の中心人物を調査せしめた結果、漳州附近の者にして嫌疑者として數十名逮捕せられたが今日に到るも中心人物不明である。本件に關してはその捜査困難の爲、捜査も漸々冷淡になり反動分子は増々暗躍を増した。尙省政府當局の派遣せる探偵員は漳州附近に於て當地駐軍七十五師の行動を探るころ終に發覺し、七十五師當局は嚴命を以て各部隊に探偵員を發見すれば直ちに逮捕す

べしと通知した。數日前漳州城内に於て一名捕へられ軍法處に轉送取調べ中なりと、省政府は直ちに釋放を電請したるも七十五師は之を退け、省政府七十五師の間は益々險惡になりつゝある。

蔣政權の廣東省政府では産業開發を計る

新任廣東省政府主席李漢魂は長期抗戰に即應せしめん爲資源の開發、産物の増産等を計畫しつゝあると傳へらる。これは廣東省の心臓にして産業の最も豐饒たる廣東市を中心とする珠江流域を失ひたるため直ちに物資の缺乏に窮迫したる結果である。次に同省建設廳長の發表したる計畫内容を見るに

一、農業 同省の農産物は米、煙草、蠶絲、甘蔗、茶、果實を以て主産品とするも人口稠密なれば米穀は極度に不足を感じ毎年佛印、暹羅より多量輸入する状態である。然かも戰爭の爲め海上封鎖に遇ひたる爲め輸送意の如く行かず奥地では甚しき恐慌を來して居る。當局の現下に於ける救助方針は先づ米穀植付の指導、産量増加

の研究、荒地の開發、甘藷、大豆、落花生等雜穀獎勵の數點を擧げ、各區行政專員及各縣長より直接指示を受けて實行することとした。一方林産方面では山地は秃山多く木材少く且つ之が培植を好む者少ないから將來極力培植を獎勵すべきであるとし、建設廳から技術者を各縣に派遣し荒山の調査及亂伐の取締を行はんとするものである。

二、漁業、牧畜 廣東省沿岸の漁業は、元頗る盛んであつたが海上封鎖を受けてからは出漁し得ず之等失業漁民の救済こそ現下の急務であるから當局では彼等を農、鑛、牧業に轉向せしむる様努力しつゝある。牧畜方面に於ては各縣に於て各大規模の牧畜場を設置せしめ牛、羊、豚、鶏、鴨等を飼養せしむる。

三、鑛業 廣東省内には石炭、鐵、銀、タンゲステン、アンチモン、マンガン、燐等の貯蔵量多く近年盛んに開掘さるゝ様になりつゝあるも、更に建設廳より技術者を各地に派遣し調査せしめて之を僑務委員會に報告し同會より各地の華僑に呼びかけ、華僑の資本を以て之が開墾を促進せしめんとする。

要之、各案とも何れも窮餘の策にして且つ實行性に乏しく徒らに廣東物資極度に飢饉し居る慘狀を暴露したるものを見るべきである。

汕頭の近況 (コロンス)

一月二十四日汕頭から入港した外國船安徽號船客百六十餘名がコロンスに上陸したが彼等は交々次の様に語つた。

最近の汕頭市は宛ら戦後の廢墟である。そして乗船前にも流言蜚語が飛んで居たが駐軍には何等の實力なく民衆は毎日の様に他地方へ逃避してゐる。汕頭駐軍は廣東軍で三箇師と稱されてゐるが各師共に二團又は一旅で、然も士氣沮喪して居り先日日本の飛行機が上空を通過した際は先きを争つて逃出し少しの戦意もない。それにも拘らず彼等は民衆に對しては野蠻性を發揮して居り今では殘留市民は一日も早く蔣政權から逃れることを願つてゐる。



華僑

情報

總督及司令官に祝辭

在臺華僑代表から輝く帝國の戰勝三年の紀元節の佳辰に海南島占領の吉報がもたらされ當日は國を擧げて建國の精神に立ち返り興亞の意義と堅忍持久の覺悟を新にしたが在臺五方の華僑も帝國の聖戰の目的を理解し我に協力する赤誠の一端として祝賀提燈行列に参加した。特に臺灣新民華僑總會では帝國紀元の佳節を誇ぐと共に祝賀の意を表すべく在臺華僑を代表し十一日午前十一時半會長容建麟副會長郭尙清、林學機、陳寶源諸氏が顧問劉永溪氏の案内にて臺北市建國祭參列後總督府に小

林總督、軍司令部に兒玉軍司令官を夫々訪問し紀元節並に海南島占領に對する祝辭を述べ併せて日華親善の益々固からんことを懇望したが小林總督より懇切なる訓示を受け一同痛く感激して辭去した。

安藤將軍に華僑より感謝電報

我が無敵皇軍の海南島制壓の快報は臺灣在住華僑に非常な感動を與へ東亞新秩序建設に拍車をかけるものにして十一日新民總會會長名を以て我が南支派遣軍安藤最高指揮官並に海軍艦隊司令長官に左の如く夫々感謝の意をこめた祝電を發した。

「日本皇軍の海南島占領を賀し茲に臺灣華僑を代表し謹んで奉祝の意を表す併せて日本皇軍の武運長久を祈る」

北京華僑協會が島内華僑に感謝電報

島内五萬の華僑が帝國の濫き保護に感謝し汪兆銘の和平聲明に賛同し積極的に動きつゝある趣が北京の中華民

各新民公會に左の如き感謝の電報をよこして來た。貴華僑各位が一致して汪兆銘の主張を擁護し和平運動を積極化せんとするの報道に接し東亞新秩序建設の爲め欣快に堪えず謹んで敬意を表す」

基隆華僑設立一週年記念式

基隆華僑新民公會は昨年二月五日設立以來會員の親睦を圖り時局の認識帝國の國策に協力等相當目醒ましき活動を爲し帝國保護下に於て安居樂業感謝し喜びの日を送りし處早や一箇年を過ぎ去る二月五日午後三時基隆市公會堂に於て來賓矢野市尹三宅署長外多數參列し陳會長何顧問以下會員二百餘名參集の下に一週年記念式及總會を舉行した。皇居遙拜、兩國々旗敬禮、皇軍武運長久祈願並に英靈默禱創立宣言文朗讀十三年度事業並收支決算報告をなし引續き決議事項に入り會則改訂の件(役員任期一年を二年にす)役員改選の件、福建問題對策嘆願の件中南支派遣陸海軍に慰問文送呈の件に付協議の結果滿場賛成の下に可決の後矢野市尹其の他祝辭があつた。最後

に新會員の大日本帝國萬歲三唱に續き矢野市尹が新民公會の萬歲三唱し盛會裡に散會した。

因に陳前會長は病身に依り引退し副會長宋雲開氏が會長となつた。氏は熱烈なる性格の持主にして今後同公會の活動發展に大なる期待をかけられてゐる。尙可決された嘆願文大略左の如きである。東洋平和は吾等臺灣華僑の要望せる處であり希くは日本軍が容共抗日の蔣政權を倒し福建省をして明朗なる廈門、廣東と同様に工作せられたらう。

陳嘉庚福建人を痛罵し

星洲日報其の暴言を反駁 (新嘉坡)

今回福建省債公券に對し新嘉坡華僑は之に異議を唱へ即ち福建省主席陳儀打倒を叫ばれたるに憤慨せる當地福建會館主席陳嘉庚は去る日福建會館に於ける會議の席上左の如く無茶にも同鄉福建人を散々罵倒し聽衆をして痛く驚愕憤慨せしめた。

「陳主席に反對し「福建は福建人が治めよ」この説がある

が福建人は政客の技倆が聊かもない。そのみか文に政才なく武に軍略無く胸中常識なし。品格卑汚行爲惡劣口舌徒らに弄して南洋華僑の耳を欺く……云々

之に對し星洲日報は、陳嘉庚眼中之福建人……と題する論説を掲げ、陳儀の福建治績は別として彼の暴論に對し社會の視聽を肅正し公論を明らかにする爲陳の所論を徹底的に糾明する必要があるとして、彼は「閩人治閩」に反對し陳儀擁護はよいにしても何の必要があつて同郷全省を侮辱したのか、又それを以て快みしてゐるのか、彼自身も福建人ではないか、而も當日出席せる者は皆悉く福建人であつて吾人は全福建籍華僑の爲に斷じて緘黙し難いものである。

政才必ずしも服官を指すに非らず軍略必ずしも將領を指すに非らず況や全國元首林森主席は福建の出身であり陸軍殊に海軍に於ては多士濟々であつて之全く彼の旨斷に過ぎず彼の言は全國民衆を侮辱するのみならず元首を侮辱し全國同胞を侮辱するものである。

陳は現に新加坡に於て各團體の主席となつてゐるが之

は皆福建籍華僑の推舉に依るものにして又國內の福建人は勿論南洋華僑に於ても學問事業道德等に於て彼に勝る者數多存在してゐる推ふに陳の意向は自らを唯一の領袖と思ひ小兒病的にも傍若無人唯我獨尊を以てするは誠に笑止千萬憐れむべきものである。

因みに陳は元南洋に於て相當事業を經營せしも其の後失敗して現在資産全く無なく事變を利用し救國の美名の下に暴力團を結託し自ら運動して救國團體の主席となりしも彼は言行不一致強慾にして抗日を以て職業としての實狀にして一般より極度に嫌はれてゐる。

在北京華僑協會「通電」を發す

北京の華僑協會は昭和十三年十一月一日創立以來海外華僑と連絡をとり東亞文化の發揚と生産建設の促進に努め東亞新秩序建設に協力して來たが華僑と新興明なる廈門と密接な關係を特に重視し近く同協會廈門分會の如きものを作るべく計畫中であるが此の度左記の如く「華僑協會通電」にして廈門に送付して來たのである。

「全閩新日報を通じ華僑各團體に告ぐ黨府は聯蘇容共を以て焦土抗戰以來既に一年有半人民の怨忿其の極に達せり友邦が師を起したるは素より防共の爲にして其の師の行く處日に明朗となり更生建設の實着々擧る而して近衛首相の聲明には領土主權の野心なく戰費賠償の要求を爲さず且つ進んで治外法權撤廢及租界返還を主張するは我が國の完全なる獨立を確保し平等互惠の原則を以て國交を調整し經濟提携を實行し防共に協力俱に東亞永久の平和を圖り新秩序の建設を俱に負擔我が五億の同胞を水火より救はんことをなすものなり汪精衛先生は黨國の元老にして素より先見の明あり深く友邦の斯くの如き誠意を惜り危險を省みず毅然として妥協趣旨の提案をなせり、斯くすれば之より友邦ますます「和好を加へ反共各國との親善を恢復し得べし」兩者の言たるや全國有識の士皆敬服する處にして是れ即ち救國唯一の途なり一度誤りて二度誤るべからず、凡そ我が華僑同胞は國外に散居すに雖祖國の興亡は各人の責務なり望むらくは速かに一致して起ち其の主張貫徹を擁護し以て危亡を救はば中國の幸甚又東亞の幸甚なり」

救國公債利息を強利獻金

蔣政權の抗日勢力が抗戰の名に於て救國公債、國防獻

金等次々に好題目で民衆の擧取に大童となり殊に南洋華僑に對しては運動員は勿論わざ／＼大官迄派遣して華僑達の獻金送金等に狂奔してゐる事は衆知の事實であるが最近中央部では該公債利息貢獻を民衆に強制してゐる。傳へられる即ち抗戰以來莫大な救國公債を發行して抗戰費を稼いで來たのであるが連戰連敗已に大勢は決してゐるにも拘らず公債の利息すら支拂へない現狀にあり殊に汪精衛の脱出と和平通電吳佩孚驅逐等の爲和平運動の展開となり倒蔣和平の空氣が濃厚となつて民衆は勿論華僑の非難轟々にして其の詐欺行爲に憤激してゐる。

暹羅華僑の情勢

其後華僑間の情勢は打續く支那側戰況不利と官憲の取締嚴重の爲表面沈静し漢字紙其他新聞の論調も寧ろ平靜となり抗日團運動の餘地無き模様であつたが英米對支借款成立説入報以來漢字紙の論調頗る強氣となり抗日煽動の文章盛に掲載されるに至つた爲抗日團を刺戟し去る十二月二十七日市内邦品取扱華商の店員が店內にて顧客を襲へる「テロ」團員の爲刺され重傷を負ひたる事件突發した。然るに汪精衛の聲明は當地華僑に異常なる衝動を與へたもの如く漢字紙は一齊に汪を攻撃するも汪從來の地位に鑑み蔣の落日に悲觀氣味なる華僑有力者には汪の態度に多大の賛意を持つものあり今後の成行は多大の注意を惹いて居る。



臨時情報部

一月二十六日

1. 吳佩孚歴史的躍起の通電を發せり
2. 漢口外廓の遊撃隊、土匪の掃蕩戦果
 - イ、雲夢警備隊は西方八杆兩河口に潜伏中の敵遊撃隊約二百を奇襲、その大部を殲滅し俘虜十数名、機關銃、小銃を多数鹵獲。
 - ロ、嘉魚警備隊は二十三、四日の兩日に亘り蒲圻東方三十四杆神山附近に在りし約四百の敢死隊を攻撃潰走。
 - ハ、大冶方面、北方七杆徐家鎮警備隊は二十日東南方三杆黃王上の土匪を討伐相當の損害を與へたり。
 - ニ、大冶警備隊は二十二日西南十一杆靈寶に在る約三百の土匪を討伐潰滅。

一月二十七日

1. 山西省東部大ソウヰツト區粉碎
 - 二十六日平井村(和順東南方)に遊撃隊三百餘を殲滅。
 - 二十七日靈王鎮、大佛塔、寺平村(和順南方)を猛攻徹底的に潰滅。
 - 北方地區清鄉部隊は隨所に敵を粉碎中。
 - 折て劉伯承、朱德、彭德懷が建設せし大ソウヰツト區は我が軍の果敢なる猛攻に一溜ともなく粉碎されたり。
1. 昨秋黄河河畔の戦闘に於て偉勳を建てたる中部隊

一月二十八日

1. 日寇親善機乃木號は午後三時二十四分發合飛行場に安着日寇親善大飛行の偉業をなし遂げたり。

3. 黃坡東北方の遊撃隊撃滅

二十五日朝來黃坡東北地區に暴動中の遊撃隊約三千を包圍猛攻中の我が部隊は敵の據點八里灘及木蘭山を占領敵を潰滅せしめ多数の兵器彈藥を鹵獲寒冷の大別山麓に高からに凱歌を擧げたり。

4. 空軍の爆撃

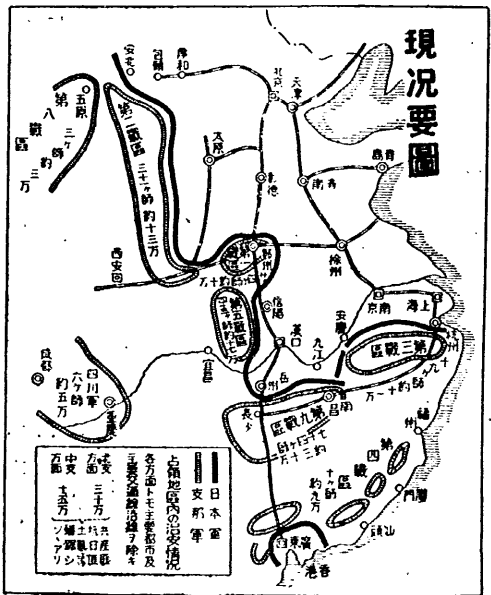
【新會】(廣東南方)一軍需滿載の運貨船二隻爆破。
【蘇步】(肇慶の西方)一田地附近にて敵測量艦を的確に爆撃沈没せしめたり。

1. 沛縣、豐縣方面の共產匪殲滅
 - 沛縣、豐縣(徐州西北方)方面に蠢動する共產匪に對し一月中旬より徹底的殲滅を期し果敢なる行動を開始し殆んどこれを剿滅せり。
2. 空軍の爆撃
 - 【陝縣】一停車場及停車中の列車を爆撃。
 - 【鄭州】一敵二十九軍第二十師司令部爆撃。
 - 【高陽】(保定東南方三十五杆)一地上部隊の攻撃に協力多大の戦果を収めたり。
 - 【新會】一田地附近にて敵の大運貨船を爆撃。
 - 【江門】一西江方面の攻撃に向へる部隊は同地に聚集する敵軍用舟艇群及運貨船を爆撃、多量の軍需品を焼失又は飛散せしめたり。

3. 南海鐵道(九江—德安)開通

3. 空軍の爆撃

因に射陽河上流には今尙匪賊跳梁治安を紊しつゝある状態なり。



2. 援蔣の英諸船舶抑留

蕪湖河口、射陽河口方面に於て第三國の船舶がガソリンその他軍需品密輸入盛んなりとの確報に依り青島税關監視船海晏號が監視中英船一永貞號、ノールウエ船一海達號、ハフサ號の三隻を發見、密輸入の嫌疑を以て抑留せり。

定し堂々獻身報國の誠を以て國難に赴くべきことを強
調せり。

同會の首腦

政府側—王克敏、梁鴻志、溫宗堯、朱深、王揖唐、
陳群。

北—陳宦、袁乃寬、陸宗輿、恽恕、吳廷燮、
天津—陸錦、吳毓麟、王廷楨、楊壽柵、五人文、
上海—江天鐸、鄧邦述。

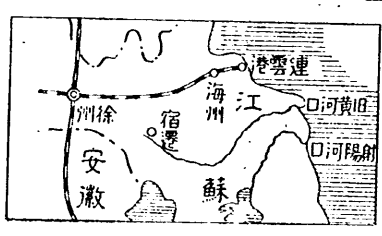
宣言の要旨
▲吳佩孚將軍に接洽委員長就任懇請。
▲蔣介石側各軍の招撫を實行速かに和平の實現政
局の安定を計る。

▲誠意を披瀝し隣邦と親睦を計る。
▲地方軍政長官其他の参加を勧告す。

昭和十四年二月十九日印刷
昭和十四年二月廿一日發行 (月三回發行)

臺灣總督府臨時情報部

臺北市榮町二丁目十五番地
印刷人 加藤 豊吉
臺北市京町一丁目四十三番地
印刷所 小塚本店印刷工場



【清遠】(四會)【肇慶】(高要)
一 方面に於て移動中の
敵を猛爆多大の損害を
與へたり。
【欽縣】—同市城外よりの極
めて熾烈なる防禦銃火
を制限しつゝ、同市内に
散在する機銃陣地に對
し果敢なる擲撃をなし
之を沈黙せしめたり。

一月三十日

1. 空軍の擲撃

【龍江】—倉庫群擲撃。
【蘭山】(廣東の西南方約八十軒) 屯糧場(鶴山の西方二
十軒) — 移動中の大部隊を急襲潰散せしめたり。

【綠步】(平南) — 肇慶の西方 — 渡河中の敵を發見、こ
れに猛掃射を加へ大打撃を與へたり。

【南寧】 — 同市西方の鐵橋擲撃、附近道路上に在りし軍
用自動車約三十臺を擲撃、尙建築材料を満載せる
運貨船數隻を銃撃甚大なる損害を與へたり。

2. 和平救國會成立

全支各界各層の和平救國の要望に應へる一大統制機關
たる和平救國會は結成せられ、午後四時重要宣言を決

臺灣總督官房調査課編

海南島

菊版 六五〇頁

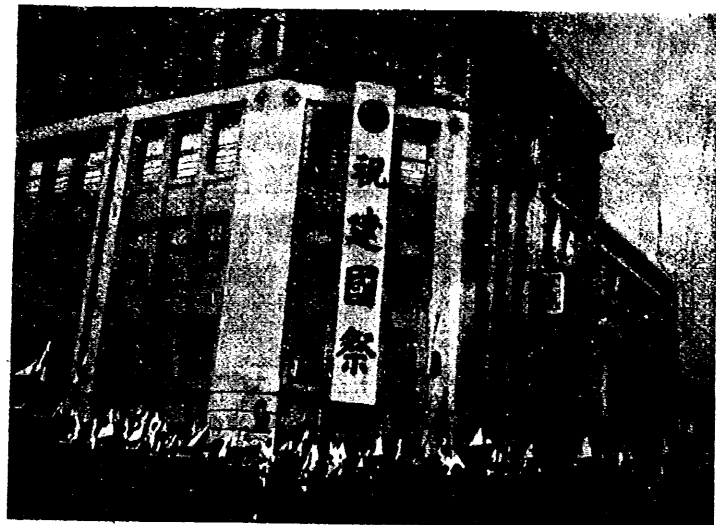
定價三圓五十錢

(送料廿一錢)

臺灣總督府構内
南洋協會臺灣支部

電話總督府構内四九八番
振替口座臺灣一二六七番

郵報 昭和十四年九月二十日（星期三）發行
昭和十四年十月一日、十一日、廿一日發行 第五十三號



榮菊元

町榮・北區
番三三三七話電